

はまかせ

風が運ぶお知らせ便り♪

2014.07
Vol.07

ワンランク上の病院をめざして

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献します。

nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

Message メッセージ

地域周産期母子医療センター

■概要、Q&A、スタッフ紹介 etc.

Information お知らせ

■にしびょうTopics

ボランティア活動表彰式

看護部新規採用者オリエンテーション

■新人、若手教育

・診療部より専攻医の声、研修医の声

・検査部より新人研修

■院長エッセイ「四季雑感」

威風堂々

■医療技術NOW!

後発医薬品の使用促進について

■絵の中の風景を旅するvol.7

にしびょう美術館館蔵品を毎回紹介



地域周産期母子医療センター



周産期母子医療センター長：安部治郎

周産期母子医療副センター長：増原完治

周産期母子医療副センター長：小泉眞琴



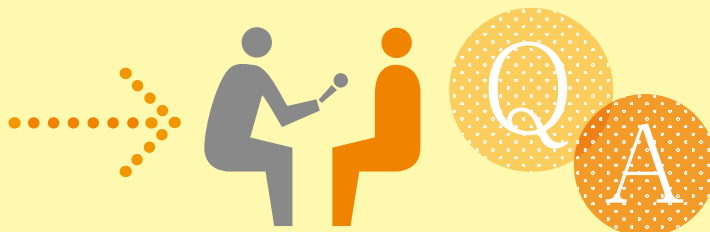
当 院は、平成25年4月1日に「地域周産期母子医療センター」に指定されました。これは国が定める母子保健医療対策等総合支援事業実施要綱並びに周産期医療システム整備指針に基づき、地域周産期母子医療センターとして必要な基準を満たしているとして認定されたものです。また、当院は救命救急センターが併設されており、ハイリスクな妊婦・褥婦の方々の受け入れに対し安全に対応できる施設となっております。2013年度の産科実績は分娩数771件、母体搬送受け入れ156件、ハイリスク分娩191件、帝王切開256件、双子29件です。



西 宮病院では昭和36年に20床からなる未熟児センターが開設、平成9年から未熟児センター14床、呼吸器を3台有し、人工呼吸管理を行ってきました。平成19年6月、3床の新生児特定集中治療室(NICU)管理料が、平成23年6月に11床の新生児治療回復室(GCU)入院医療管理料が取得できる施設と認定。研修面では平成22年9月日本周産期・新生児学会の指定指導医施設となりました。平成23年4月から肺高血圧管理の一酸化窒素吸入を導入し、現在26週以上かつ600g以上の幅広い病的新生児の受け入れが可能となりました。

平 成26年度は更なる発展を目指し、NICU6床とGCU6床、母体HCU2床へ再編の予定です。当院の「断らない医療」をモットーに、これからも地域の医療機関の皆様と連携し、周産期センターとしての機能の充実を図ってまいります。西宮市、また阪神地域の先生方でお困りの症例がありましたら、小児科当番医(昼間)・当直医(夜間・休日)にお尋ねください。

妊娠・出産について質問! INTERVIEW



Q 双子を妊娠しましたが、ちょっと心配…

A 妊娠中や産後の注意点について両親学級や双胎学級で学びましょう。妊婦さん同士同じ悩みや気持ちを分かち合えるチャンスでもあります。双胎学級は他院での分娩予定の方でも受けて頂けます。ご希望の方は、当院ホームページをご覧ください。

(5階病棟看護師長 田村真理子)

母性看護専門看護師のご紹介!!

母性看護専門看護師は、困難な問題を抱えるお母さんとお家族はもちろん、ケアで困っているスタッフに対しても解決できる方法を一緒に考えていく看護師です。地域で周産期ケアに携わっている皆さまからの相談にもものらせていただきますので、是非、ご連絡ください。

(母性看護専門看護師 細見和加)



最新情報

□AABR(自動聴性脳幹反応)を用いた 新生児聴覚スクリーニングを開始しました!



先天性難聴は500-1000人の出生に1人の頻度で発見されます。AABRとはABRでの35dBにおける自動判定機能を有したもので、「パス」あるいは「要再検」で結果が示されます。本機器の感度は100%、特異度は99.6%であり、「パス」の場合は検査時点での聴力は正常と見なされます。またベビーが眠っている間に検査ができるため、ベビーにも優しい検査です。聴覚障害を早期発見し、適切な支援・介入を行うことを目的としています。



スタッフ紹介



- 安部 治郎(周産期母子医療センター長、小児科部長)
- 増原 完治(周産期母子医療副センター長、産婦人科部長)
- 小泉 眞琴(周産期母子医療副センター長、小児科科長)
- 信永 敏克(診療部長、産婦人科部長)
- 中辻 友希(産婦人科部長)
- 小柳津 裕子(小児科医長) ● 宮原 由起(小児科医長)
- 渡邊 慶子(産婦人科医長) ● 橘 陽介(産婦人科医長)
- 小林 千鶴子(小児科専攻医) ● 鈴木 晶子(小児科専攻医)
- 鈴木 陽介(産婦人科専攻医) ● 山下 紗弥(産婦人科専攻医)
- 中江 彩(産婦人科専攻医) ● 清水 亜麻(産婦人科専攻医)
- 角田 紗保里(産婦人科専攻医)
- 甲斐 智彦(臨床研修医) ● 永瀬 慶和(臨床研修医)
- 大西 俊平(臨床研修医)

ボランティア活動表彰式

昭和41年にボランティアグループが設立されて以来、永年にかけて入院病棟のご案内や花の飾りつけ、病棟での移動図書の運営などに取り組まれています。46名の方々が日々元気に活動を続けておられ、こうした皆さんの温かい自発的な取り組みに対して感謝の意を表し、5月に河田院長から500時間達成者4名、1,000時間達成者1名、2,000時間達成者2名、3,000時間達成者1名、4,000時間達成者3名の方々に感謝状が手渡されました。今後ともホスピタリティの心に満ちた病院をめざして、元気あふれるボランティアの皆さんとともに邁進していきたいと思っています。



看護部新規採用者オリエンテーション



▲「車いすへの移動介助」

▲「採血の練習」

新卒看護師37名、既卒看護師を含む合計60名の新規採用者が入職しました。入職時オリエンテーションの後、新卒看護師は看護技術研修会があり、技術の再確認をしてから部署に配属となります。グループワークも活発に発言し、積極的に実技訓練を受けていました。

新人若手教育

専攻医の声

初期研修を当院で終えたのち神戸の病院で一年の研修を経て、腎臓内科専攻医として西宮病院に戻って早2ヶ月が経ちました。多種多様な経歴をもつ頼もしい上司の元、毎日充実した日々を送っています。当院では慢性疾患はもちろん、腎炎や急性腎不全まで幅広く対応しております。また泌尿器科と連携し、腎代替療法として腎移植を提供できるのも大きな魅力のひとつです。患者様を通して、近隣病院の先生方にお世話になる機会も多いと思いますが、少しでも西宮の医療に貢献できるよう精進して参ります。よろしくお願いいたします。

(専攻医: 荒尾舞子)

研修医の声

当院には様々な診療科があり、自分の希望する診療科以外にも幅広く研修することができます。例えば、高血圧・糖尿病といった生活習慣病にはじまり、重症外傷、妊娠・分娩、さらには腎移植まで、とても幅広く学ぶことが可能です。このような当院での研修を通じ、将来は西宮の医療に貢献できるような医師になりたい、と私たち研修医は考え、日々精進しております。

(研修医: 永瀬慶和)

検査部新人研修

新規採用された検査部の新人は、兵庫県主催の新任職員研修で基礎的知識を身に付けた後、専門の研修を受けたマンツーマン指導員によるフォローアップのもと、OJT (On-the-Job Training) を開始します。内容は、日常業務の習得と、宿日直のためのトレーニングが主体です。基礎をマスターした後は、各種認定資格取得等でスキルアップを図ります。「臨床から信頼される検査」を目指し、検査部一丸となり取り組んでいます。

(検査部: 真田浩一)



四季雑感



焼 けつくようなアスファルトの道を歩くときに感じた、あの湧き上がるような生命感はどこへ消えたのかと思うときがあります。徹夜明けの眠気と闘いながらも、そうしている自分に誇りを感じていたころを懐かしんでいます。懐かしいといえば、かつて八月には方々の公園や空き地で盆踊りが催されていましたが、近頃はあまり見かけなくなりました。まだ若かった頃、珍しく宵のうちには帰宅できたある日、帰宅途中で炭坑節が鳴り響いていたので、夕食後に幼かった娘を乳母車に乗せて、たぶんあの公園だろうと見当をつけて家族で出かけました。盆踊りはすでに終盤にさしかかっていましたが、とりどりの浴衣姿の踊り手たちは、帰宅しはじめた観衆を繋ぎ止めようとするかのように、精一杯の踊りを披露していました。大音量で流される民謡とそれに負けまいと打ち鳴らされる櫓の太鼓の音が、派手な色使いの提灯や焦げたイカ焼きの香ばしい匂いととも、不思議な高揚感を与えてくれました。肌にまとわりつく空気のなかで、長く伸

びた踊り手たちの影がシュールに揺らいでいました。帰り道では、私の頭の中で河内音頭が鳴り続け、なぜか家族そろってリズムを刻んで歩いていました。

音楽には脳を活性化させる働きがあるようです。芸術的な知力はいわゆる論理的な知力とは異なるようで、最新の脳科学で解き明かされようとしています。とくに驚くのは、怪我や病気で脳に大きな障害を負っても、音楽的な感覚は保存されていることがあるそうで、認知症になってほとんどの記憶が失われていても、過去に覚えた歌曲は完全に記憶にとどめている方がいるようです。英国人にとってはエルガー作曲の「威風堂々」が元気の素であるらしく、私も経験したことがあります。コンサートの終わりには必ず演奏され、ときに聴衆が加わって大合唱となるようです。猛暑で今一つ元気が出ないときには、お気に入りの曲を聞くか、それができないときは頭の中でその曲を奏でて、この夏を乗り切りたいものです。



兵庫県立西宮病院 院長
河田 純男

医療技術 NOW!

西宮病院の「今」がわかる。

厚生労働省は、医療の質を落とすことなく、医療の効率化を図るため平成25年4月に策定された「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」において、平成30年3月末までに国内の後発医薬品の数量シェア60%以上を目標値としています。当院でも採用医薬品の使用頻度、薬価等を考慮し、順次後発医薬品に切り替えています。

薬剤部では薬剤管理指導の際に患者様の持参薬を確認し、当院採用の後発医薬品に処方変更した場合は、後発医薬品であっても先発医薬品と同等であることをご理解いただけるように説明しています。今後も後発医薬品の使用促進のため、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



(薬剤部:中尾あゆみ)

絵の中の風景を / 旅する vol.7

<http://www.nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp/>

当院外来ロビーや各病棟には、地域の方々や入院患者さん、そのご家族などからのご寄贈による200点以上にもぼる絵画が飾られています。“にしびょう美術館”の貴重な“館藏品”は、当院ホームページ内の「にしびょうWebミュージアム」でも常設展示していますが、これらの作品の中から、毎回、ちょっと気になる1作品をとり上げてご紹介いたします。と一緒に、絵の中の風景を旅してみませんか。



展示場所

本館10階
EV横の壁面

神戸港で、静かに出番を待つ大小2隻のタグボート。

タグボートの仕事は、小さな体に似合わない大きな馬力で、港の中を自由に動くことのできな
い大型船を押ししたり、引いたり、あるいは、消火活動や船を先導しながらエスコートするなど、
活躍範囲は非常に広く、まさに船旅になくてはならない縁の下の力持ちだ。

また、青い海と空、緑の六甲山の山並みが船とマッチしており、この作品を見ていると、船の力
強さを感じるとともに、清々しい気持ちにさせる作品だと思う。(総務部:足立彰久)

編集後記

編集室



心待ちしていただきました先生方をはじめ愛読者の方々、お待たせ
致しました。『はまかせ』第7号発行が無事終了しました。今回は、地域
周産期母子医療センターについて中心にご紹介致しました。これから
も『はまかせ』が西宮病院と地域の先生方、ご愛読いただいている
皆様への架け橋になれるように努力して参ります。

(看護部長:足立育子)

兵庫県立西宮病院

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町13番9号
TEL:0798-34-5151(代表) FAX:0798-23-4594

地域医療連携センター FAX:0798-34-4436

E-mail:chiiki-kg@hp.pref.hyogo.jp

HAMAKAZE
2014.07
Vol.07

nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

2014.8 発行